

校内慰霊祭

6月22日(金)1校時に、本校翔洋碑前で全校生徒・職員による慰霊祭が行われました。

私からは、6月23日慰霊の日についての説明と沖縄で学徒隊としての動員された数は約1,900人。その内戦死者数は、981人。その中の66人は本校の水産鉄血勤皇隊員であったこと、将来を担うはずだった皆さんと同じ年代の若者が戦争に巻き込まれ、かけがえのない生命を失ってしまったことを話し、今日の慰霊祭をとおして平和の大切さを考える機会としてほしいとあいさつしました。

列席した沖水翔洋同窓会長の末吉真敏氏から「国際法では通常、公海を航行する船舶は常時国旗を掲げることになっている。しかし、サンフランシスコ講和条約で日本から切り離され、アメリカ統治下となった沖縄の国際法上の地位は不安定で、星条旗も日章旗も掲げることが許されなかった。当時の琉球列島米国民政府では、国際信号旗のD旗の端を三角に



切り落としたものを『琉球船舶旗』として船舶に掲揚させた。この信号旗は『我、航行不能につき我に接近するべからず』という意味で、国旗ではない。その旗を掲げた沖縄の船が、各国の沿岸警備隊や軍隊からたびたび国籍不明の不審船とみなされ、拿捕や銃撃を受けることなどが大きな問題となっていた。1962年4月3日、インドネシア近海でマグロ漁船『第一球陽丸』がインドネシア軍の航空機に『不審船』とみなされ、攻撃を受けた。乗員23人中1人

死亡、3人が重軽傷を負った。その船の通信機は出力が弱く救助を要請した通信は沖縄まで届かなかったが、近海に居合わせた沖水の実習船海邦丸がその無線を傍受し、沖縄へ一報を伝えるとともに救助にあたった。戦中の学徒の辛苦と、戦後にあっても、沖縄は不条理を負わなければならなかった中で、沖水の先輩方は必死に頑張ってきた」とし、在校生へ歴史を見つめ、将来の目標に向かって努力してほしいとありました。

生徒を代表して生徒会副会長の新里美那子さん(3-14)から「戦後73年目を迎えるにあたり、この慰霊祭を機会に、もう一度平和の意味やありがたさを考えたい」とあり、最後に



全員で黙祷を行い、慰霊祭を無事終了することができました。



海邦丸五世位置

6月25日(月)08:00 日本時間07:00 だいたいこの辺です。
6月21日に赤道を越えました。

